

伝統とは

OB 会会長 22 期 黒崎 敏男

9 月 30 日（土）の創立 65 周年記念総会・懇親会は無事開催でき、総会では活発な意見があり、懇親会は盛会となりました。皆様のご協力に重ねて御礼申し上げます。当日はバタバタしてご出席の皆様とは十分な会話もできず、申しわけありませんでした。今回、懇親会には着席ではありませんでしたが、相互に入り乱れて OBOG・現役を問わず懇談しておられるのを拝見し、こちらも嬉しく思いました。こうしたお付き合いができるのもクラブを立ち上げ、それを維持して来られた多くの先輩方のお陰と感じた次第です。

次の創立 70 周年記念総会・懇親会までの 5 年間も不肖わたくしが会長の任を務めさせていただきますので、皆様からのご支援を受けながら次の世代への橋渡しに尽力してまいる所存です。運営については至らぬところが多いとは存じますが、今後ともどうかよろしくお願いいたします。

さて、その 1 週間後には秋の小屋作業に出向き、いつもながらの悪路に悩まされながらもどうにかベルクハイムにたどりついて一定の対応をしたところです。今回は小屋自体のトラブルが露呈し、来春での対応が避けられない印象でした。このような状況でしたが、今回久しぶりに現役の皆さんの強い要望で高三郎登山を実施してみました。栃倉分岐から先は藪がひどく、難儀しましたが何とかピークを踏み、一同歓喜した次第です。

この登山道は現時点でも熟達者であれば何とか登山は可能ですが、終始気を張るため疲れ方が他の山と違うのが毎回印象に残ります。自分が現役のころ、先輩から「高三郎に登れば日本中どここの山でも登れる」と言われた言葉を今回現役の皆さんにお伝えしました。皆さん納得されたと思います。パワーとスタミナ、安全な上り下りの技術、快適に過ごすための装備・食料の計画と準備、いずれも整えないとわずか 1400m の山ですが、跳ね返される厳しさがあります。

伝統というには大げさかもしれませんが、今回世代を超えて共通の体験をさせて頂く中で、絶えず変化する環境の中でも 65 年前に打ち立てられた普遍的なイメージを伝承していくことは可能なことのようにも思え、また、新しい世代もそれを期待しているように感じました。

次回の春の小屋作業は来年 5 月連休明けを予定しています。同様に小屋作業、登山道整備を計画していますので、希望者は遠慮なくご連絡ください。特に、金沢近郊にお住いの OBOG の皆様にはこちらからお誘いしますので、ぜひご参加ください。ボートで行けるよう頑張ってみます。

また、総会でご承認頂きましたとおりですが、冊子形式の「やまざと」は今号をもって最終回とさせていただきます。これまでの伝統に別れを告げるのは寂しさもありますが、形を変えても先輩方の想いは引き継いでいきたいと思います。

次の 5 年間もこれまで同様、私自身できるだけ多くの会員の皆様と直にお話しする機会をもつよう努力しますので、お会いできた際には忌憚のないご意見を承りたく存じます。

今後とも何卒よろしくお願いいたします。